

健康科学研究科 柔道整復学専攻 修士課程

健康科学研究科 健康科学専攻 柔道整復学分野 博士課程

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各研究科・専攻は、それぞれの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、専門領域ごとの特色を活かした教育方法による教育・研究を行っています。教育方法の特色ある工夫としては、入学生に社会人が多いことを活かしたフィールドワーク研究を推奨し、研究の成果を社会に還元できることが挙げられます。

【教育方法】

中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」では、「高度専門職業人の養成に必要な教育」として「理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する能力が身につく体系的な教育課程が求められる」とされています。これを実現するために、理論面に力点を置く授業と、実践・応用面に力点を置く授業とのバランスを考えた科目構成で教育を行っています。

医療職種としての柔道整復は運動器の外傷に対する手当が主な仕事ですが、健康科学研究科に属し、授与される学位が修士（健康科学）である柔道整復学専攻では、健康科学の広い視野で教育・研究を進める方針です。本専攻では、伝統に根ざした実践技術である柔道整復術を、基礎医学・臨床医学を含めた西洋医学的な知識や方法論を取り入れながら検証していきます。そのために、研究科共通の専門基礎科目と専攻の専門科目の連携を重視して授業を展開しています。基礎科目は学年指定のない選択科目ですが、専門科目履修の基礎知識として必要性の高い科目は1年生前期に配置して、全員が履修するように指導しています。

【教育の特色ある工夫】

- ・柔道整復学専攻では、伝統的な経験医学の柔道整復術を、科学的な視点から解明し、EBM (Evidence-Based Medicine：根拠に基づく医療)を行う目的で、最初に、科学的な思考や分析方法を習得できるよう基礎科目(健康科学研究法特論や運動生理学特論)を設けています。
- ・研究は、臨床研究(施術効果のエビデンス)及び基礎研究(運動機能)を行うことができ、院生の希望や研究設備の利用から、臨床研究は池袋キャンパス内の関連施設の帝京池袋接骨院、帝京大学附属池袋クリニック（接骨院対象コンサルタント外来）や市中接骨院と、基礎研究では帝京大学など他の大学・研究施設と連携して研究ができるよう便宜を図っています。
- ・教育者・指導者としての能力向上のため、学部学生の実技実習においてTA(Teaching Assistant)として学生指導する機会を設けています。

【健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）教育の特色ある工夫】

- ・健康科学専攻の中には修士課程の7専攻に対応した七つの分野（鍼灸学、柔道整復学、健康栄養学、言語聴覚学、作業療法学、理学療法学、病院前救急医療学）があり、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性が保たれています。
- ・人を対象にした研究が主になるので、研究倫理全般と臨床研究の倫理を理解・修得するためにeラーニングを用いて教育を行っています。
- ・研究自体は各院生が指導教員と相談・議論しながら進めますが、多様な医療職種の院生が共に学ぶ本専攻では、専門の枠を越えて他職種を理解し連携力を身につけることで、健康科学の広い視野に立って臨床や教育・研究の場で活躍できる人材を育成できると考えています。